

DIocese OF SAITAMA

TOKIWA 6-4-12, Urawa-ku,  
SAITAMA city  
〒330-0061, JAPAN  
TEL: 048-831-3150  
FAX: 048-824-3532



カトリックさいたま教区

さいたま市浦和区  
常盤 6-4-12  
〒330-0061  
TEL: 048-831-3150  
FAX: 048-824-3532

## 2022年 新年のメッセージ

キリストのうちで、キリストを通して、キリストとともに旅する

私たちキリストの教会に欠くことができない協働性についての理解を深め、

実行する年となりますように

兄弟姉妹のみなさん、2022年、新年おめでとうございます。新しい年がみなさんに、そしてそれぞれのご家族にとって、神の祝福で満たされた一年でありますように。

昨年さくねんの暮れ近くくの10月17日ちか、世界中せかいじゅうの小教区しょうきょうくで、2023年10月に開催される世界代表司教会議せかいだいひょうしきょうかいぎ（シノドス）に向けての教区シノドスのスタートを祈念していただいたことは皆さま覚えてくださると思います。そして、実は、その大事な準備として、信徒の皆さんに先駆けて、私は司祭、助祭と一緒に、12月7日に、サレジオ会司祭・阿部仲麻呂神父をお招きして、「教会の共に生きる姿、協働性」について学びました。そのとき、阿部神父様は、教皇フランシスコの就任当初からの切なる思いのことを改めて思い出させてくださいました。それは、「相手と一緒に生きることの尊さをすべての人に気づき、思い出してほしい」という思い

のことでした。考えてみていただきたいと思います。日本は経済的には進んでいる国と見なされていますが、キリスト教の福音宣教という点で言うなら、福音の宣教が待ち望まれている代表的な国の一つです。今回のシノドスの意義がもっとも大きい国だと言えるのではないのでしょうか。

私たちは「教会の共に生きる姿、協働性」について学び、話し合う熱意には欠けてはいませんが、コロナウイルスのパンデミックは衰えては勢いを盛り返すこ

とがやまず、私たちの話し合いの前途は楽観できません。しかし、わたしたちは、この特別の「試みの時」を「恵みの時」とすべく、注意深く、そして、ひるむことなく、前進しようではありませんか。皆さんに先立って学んでくださった司祭や助祭たちは皆さんとのこれからの「協働」を大変楽しみにしてくださっています。どうか、司祭や助祭と共に、希望のうちに歩む年になさっていただけますように心から願っています。

わたくしのもう一つの願いは、わたしたちの教皇フランシスコの二つの重要な回勅、「ラウダート・シ」と「兄弟の皆さん」をもう一度手に取っていただき、それに導かれて、この世界は一つの大きな家族であること、この地球は、人間だけでなく、すべてのいのちにとっての「わが家」であることを一層心に深く刻み、このパンデミックの中で、最もつつましく、貧しく、苦しんでいる人々とともに歩む決意を繰り返し新たにし、ともに歩んでいただきたいことです。

安心のうちに皆さんの共同体を訪れ、皆さんのお元気な姿にお目にかかる日の近からんことを心から願いながら。

主の祝福が皆様の上に豊かにありますように。

神の母聖マリアの祝日

マリオ山野内倫昭  
さいたま教区司教